

平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	人間・環境学研 究科	カテゴリー	人文科学総合科目群	横断 区分	文理横断型				
授業科目名 (英訳)	外国語習得論1 (Theories of Foreign Language Learning and Teaching 1)		講義担当者 所属・職名・ 氏名	人間・環境学研究科・准教 授・中森誉之		開講 場所	吉田南キャンパ スにて開講予定				
配当 学年	修士 博士後期 専門職	単位 数	2単位	開講年 度・開講 期	前期	曜時限	月2限 (10:30-12:00)	授業 形態	講義	使用 言語	日本語と 英語
〔授業の概要・目的〕											
<p>外国語学習者が直面する音声処理上(聴解・発音・発話)の諸課題について、英語を対象言語例として、最新の認知科学理論の知見を援用しながら検討する。外国語学習者の躰きを理論的に解明して、その成果を教授学習支援システム(教材教具)開発や学習指導にどのように生かしていくのかについて、学校教育臨床研究の立場から多角的に考究する。</p>											
〔研究科横断型教育の概要・目的〕											
<p>言語習得論は、旧来の言語学・心理学・教育学といった縦割りで追究することには限界があり、脳科学や病理学、生理学などの認知科学の知見を積極的に視野に入れる必要がある。さらに、その知見は教育はもとより、工学や福祉の分野など、広く社会へ還元されるべきものである。私自身が理系人間で、産官学共同研究を工学部やメーカーの技術者達と行ったり、脳科学プロジェクトを推進したりしており、ぜひ理系の皆さんにも受講して頂ければありがたいと思っている。</p>											
〔到達目標〕											
<p>外国語学習者の視点に立って教育学的可能性を探りつつ、基本的な知識とともに、幅広い視座と深い見識を身につけることを目標とする。経験と勘、思い付きが流布する外国語学習の世界において、学術的根拠を追究する意味を明確にしたい。</p>											
〔授業計画と内容〕											
<p>1. 音声の知覚 2. 英語音声の諸相 3. 調音コントロールと発音 4. 視覚・空間認知と触覚 5. 触覚による読解 6. 認知とことばの発達 7. 音声チャンクと外国語学習 8. 教育現場の実態</p>											
〔履修要件〕											
<p>可能であれば、総合人間学部提供(コンソーシアム科目)の「英語学習指導論」(前期水1)を受講すること。または、拙著のうち、和書4冊を熟読して理解しておくこと。</p>											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
<p>今年度の後期に海外在外研究で渡英する関係で、例年とは異なる授業方式となる。上述の各テーマについて、前半日程で講義、後半(7月頃)に発表(原則として英語)を課す。 成績は、授業時に担当する発表及び発表への質疑応答に基づく。発表言語は英語とする。発表時間は30分、その後15分の質疑応答を行う。発表内容は、テーマに関連する論文や図書を最低でも計10点以上は読み、自らの問題意識を提起する。発表用のハンドアウト(PowerPoint可)を用意し、私には印刷して提出すること。参考文献リストも付けること。</p>											
〔教科書〕											
<p><i>Foreign Language Learning without Vision: Sound Perception, Speech Production, and Braille</i> 東京 ひつじ書房 2016年</p>											
〔参考書等〕											
<p><i>Chunking and Instruction: The Place of Sounds, Lexis, and Grammar in English Language Teaching</i> (平成20年度科学研究費補助金研究成果公開促進費学術図書) 東京 ひつじ書房 2009年2月 中森誉之『学びのための英語学習理論—つまずきの克服と指導への提案』(2009年 ひつじ書房)</p>											

中森誉之『学びのための英語指導理論—4 技能の指導方法とカリキュラム設計の提案』(2010年 ひつじ書房)
中森誉之『外国語はどこに記憶されるのか—学びのための言語学応用論』(2013年 開拓社)
中森誉之『聴覚・視覚・触覚からの信号—学びのための外国語音声認知論』東京 開拓社 2016年6月

〔授業外学修(予習・復習)等〕

教科書や上記文献の熟読。批判的思考。

〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕

受講者の皆さんには、自らの外国語学習経験を客観的に内省し、次世代を担う知識人として、ぜひ建設的な見識を身につける機会として欲しいと思います。外国語教育関係の仕事を目指する方、外国語教育を経験・勘・思い付きではなく最新・最先端の学術的な視点から客観的に見つめ直したい方、塾や家庭教師で英語を教えている方、言語習得論を考究したい方、その他純粋に興味関心がある皆さんの受講を歓迎します。